

第2回 第3次石狩市観光振興計画策定委員会 議事録

日 時：令和3年10月25日（月） 14：00～15：30

場 所：石狩市役所 3階 庁議室

出席者：次のとおり

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
委員長	秋井 卓也	○	委 員	大内 幸二	×
副委員長	南 誠	○		和田 郁夫	×
委 員	嶋田 拓馬	○		平塚 光悦	○
	岸本 教範	○		久保田 陽子	○
	木村 邦博	○			

事務局：企画経済部産業振興担当 部長 本間 孝之
 企画経済部商工労働観光課 課長 吉田 学
 企画経済部商工労働観光課観光担当 主査 渡部 隆弘
 企画経済部商工労働観光課観光担当 主任 上村 幸平
 企画経済部商工労働観光課観光担当 主事 中村 洸太
 企画経済部商工労働観光課観光担当 主事 佐藤 薫子

傍聴者：0名

議 事：1. 開会

2. 議題

(1) 第3次石狩市観光振興計画の策定について（継続審議）

3. その他

4. 閉会

議事録（要点筆記）

1. 開会

- ・省略

2. 議題

（1）第3次石狩市観光振興計画の策定について（継続審議）

【事務局 渡部主査】

（資料1 説明）

- ・第3次観光振興計画の体系図について、7月に開催した第1回策定委員会で確認いただいた案を上部に、今回の変更箇所を下部に記しており、事務局で重点施策の内容等の検討を進める中で、文言の修正や組換えを行った箇所を赤字・赤枠で明示している。
- ・前回（上段）の基本方針1「地域個性を生かした観光で潤う」の基本施策「観光資源の活用と整備」の重点的な取組「大規模イベントの誘致及び連携強化」について、現在、大規模イベントとして RISING SUN ROCK FESTIVAL が開催されており、その中で石狩市場として市内の飲食店等が出店をすることなどにより連携を図っている。
- ・そのため、新たなイベントの誘致活動よりも、既存イベントとの連携強化を重点的に図るため、「大規模イベントの誘致及び連携強化」を削除し、「イベントの魅力アップ」に「連携強化」を組み込み、「イベントの魅力アップ及び連携強化」と変更した。
- ・「海外へ向けた情報発信」に関して、インバウンドはもとより、国内の観光客も対象とするため、「国内外へ向けた情報発信」に変更した。
- ・「観光資源・自然環境の保護・保全」については、前回は基本方針2「持続可能な観光で潤う」の基本施策「市民が活躍する観光まちづくり」の重点的な取組に位置していたが、今回、基本方針1「地域個性を生かした観光で潤う」の基本施策1「観光資源の活用と整備」の方が適していることから、組換えを行った。
- ・前回の基本施策2「着地型観光の推進」について、現時点では、着地型観光の前段階にある、観光客の各地への周遊を促し、着地型観光の基盤をつくることに重点的に取り組んでいることから、「市内周遊の促進」と変更した。
- ・基本施策3「食を通じた誘客促進」において、前回、「特産品の販売促進・支援」と「食の魅力発信」の二段構えとしていたが、一体的に取り組む方が効果的であることから統合し、今回、「食や特産品の魅力発信及び販売促進」と変更した。
- ・前回、「観光関連事業者等への支援」に関しては、北石狩地域観光まちづくり協議会や浜益観光まちづくり推進協議会などのまちづくり協議会ができたことから、観光関連事業者に加え、このまちづくり協議会などとの連携強化を図るため、今回、「観光関連事業者・協議会等との連携強化」に変更した。
- ・基本方針2「持続可能な観光で潤う」における基本施策「市民が活躍する観光まちづくり」と「観光関連事業者等との連携強化」の順を入れ替え、また、重点的な取組「シビックプライドの醸成」と「ボランティアガイド等の育成・支援」の順を入れ替えた。

（第3次石狩市観光振興計画（素案） 説明）

- ・ 1 ページ目に「計画の策定趣旨」について、人と人との交流を促進する観光は、旅行業や宿泊業、運輸業に留まらず、飲食業や土産物販売を含む小売業など、様々な経済波及効果のある裾野の広い総合産業であり、観光振興は、地域経済を力強いものにする「地域の原動力」となる。
- ・ 本市では、豊かな自然環境や、豊富な一次産品を用いた食、温泉、歴史・文化など、多様な観光資源を有しており、平成 19 年に第 1 次計画、平成 29 年に第 2 次計画を策定し、計画的にこの観光資源を磨き、産業振興関連計画と連携しながら、観光まちづくりで地域を潤すための観光施策を進めてきた。
- ・ 第 2 次計画期間においては、道の駅の開業や、日本遺産・北前船寄港地船主集落に追加認定、市民有志が復元作業を進めてきた濃昼山道・増毛山道が北海道遺産に選定されるなど、厚田区・浜益区の観光資源が注目されるようになった。
- ・ 新港地域においては、宿泊施設の建設や、大型商業施設が開業するなど、今まで工業地域として発展してきた新港地域に“観光”の要素が加わったことから、人流の変化も起きている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症などの社会情勢の変化や、観光ニーズ・旅行形態の変化など、観光を取り巻く環境は大きく変化しているものの、地域経済のけん引役として様々な産業への波及効果が期待できると同時に、自らの地域に対する誇りと愛着を育むものであり、今後も「観光」の果たす役割は大きい。
- ・ 本計画は、これからの時代を見据え、前計画で取り組んできた「観光を切り口にした石狩らしいまちづくり」を更に一歩進めるよう、今後の観光振興に関する施策の方向性を示す。
- ・ 2 ページの「計画の基本的事項」における「（1）計画の位置付け」として、図 1 のとおり、本市の最上位計画である石狩市総合計画、総合計画を土台とした計画である「石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の下位に位置し、産業振興関連計画と横並びの計画となり、これらの計画と整合性を図る。
- ・ 「（2）計画の期間」として、第 3 次計画は、令和 4 年度から令和 13 年度までの 10 年計画とし、計画の進捗状況や社会情勢、国の政策動向等の変化に対応するため、中間年度である令和 8 年度に評価を行い、必要に応じて見直しを行う。
- ・ 3 ページの「（3）産業振興関連計画における共通テーマ及び連携項目」は、現在、関係課と調整中であり、第 3 回の策定委員会で示す予定。
- ・ 「（4）計画の進捗管理」については、図 4 のとおり、PDCA サイクルに基づき、施策の取組状況や計画の進捗状況を把握し、効果的・効率的に観光まちづくり及び地場産業の振興等を図る。
- ・ 4 ページから 5 ページは、「国及び北海道の状況」について、6 ページから 8 ページは、「第 2 次観光振興計画の検証と評価」を記している。
- ・ 9 ページから「第 3 次観光振興計画の目指すべき方向性と具体的施策」を記載しており、「（1）目指すべき方向性」としては、市民がまちの魅力を知り、広めることで、観光客が訪れ、観光で地域が潤うことを目指す。
- ・ 潤った資金で石狩市が有する自然、歴史・文化、産業、農畜水産物、人財や観光施設などの観光資源を保護、保全、継承及び磨き上げを行い、更なる魅力の向上を図る好循環を形成するとともに、観光資源を次世代へ引き継ぎ、持続可能な観光まちづくりを推進するに当たり、「住み続けたい、何度も訪れたいまち「いしかり」」を目指すべき方向性として定めている。
- ・ 9 ページ下部には、SDGs（持続可能な開発目標）の位置付けを記しており、本計画は、「8. 働きがいも 経済成長も」、「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「11. 住み続けられるまちづくりを」、「12.

つくる責任 つかう責任」、「14. 海の豊かさを守ろう」、「15. 緑の豊かさを守ろう」、「17. パートナリーシップで目標を達成しよう」の7項目が該当する。

- ・ 11 ページの基本方針1「地域個性を生かした観光で潤う」における基本施策1「観光資源の活用と整備」に関して、既存の観光資源の磨き上げを図るとともに、新たな資源の創出に取り組み、石狩を訪れる「目的づくり」を行う。また、各種媒体を用いて、まちの魅力や情報を発信し、観光需要の喚起を図る。
- ・ その重点施策①「海辺の魅力アップ」として、本市は石狩管内で唯一海に面したまちであり、古くから海水浴客でにぎわっているが、全国的な海離れやレジャーの多様化などにより、長期的にみると、海水浴客は減少傾向にある。
- ・ 海水浴は、夏期の観光コンテンツの中核を担っていることから、再び観光客を増加させることが必要であるため、公設の海水浴場である石狩浜海水浴場、厚田海浜プール、川下海水浴場のそれぞれの特徴を活かし、差別化を行うことで、ターゲットを明確化して効果的な集客を図る。さらには、ユニバーサルビーチの推進など、新たなサービスの導入やイベントの拡充などにより、来場者の満足度向上を図る。
- ・ そのほか、はまなすの丘公園や、現存する北海道最古の灯台である「石狩灯台」などの観光資源を組み合わせ、海辺の魅力を一体的に発信することで、夏だけではなく、通期的な観光振興を図る。
- ・ 12 ページの重点施策②「イベントの魅力アップ及び連携強化」について、祭りは、地域の食、歴史・文化が凝縮されるとともに、地域住民との交流が図られることから、有効な観光コンテンツの1つとされ、本市では、9月の三大秋祭りを筆頭に、多様な祭りが開催されている。
- ・ しかし、三大秋祭りにおける入込客数は減少傾向にあり、運営側の高齢化等による担い手不足が進んでいることから、地域の歴史・文化を伝える取組の拡充や、農水産物等の地域の特産品を活用した「食」の提供など、イベントの磨き上げを行うことで、来場者を増加させるとともに、イベントの市民参加の推進を図る。
- ・ RISING SUN ROCK FESTIVAL のような民間が主導する大規模イベントと、より一層の連携を深める。
- ・ その他、本市は雄大な自然や海などが映画ロケ地として活用されており、撮影が行われることで、知名度の向上や観光客の増加が期待されることから、映画撮影の誘致や関係者とのコーディネートを引き続き行う。
- ・ 13 ページの重点施策③「国内外へ向けた情報発信」について、観光客を呼び込むとともに、訪問先の地理に不安な観光客が安心してまち歩きを楽しむために、観光情報の発信は重要な取組の一つである。
- ・ 地域独自の魅力や季節の魅力、その地域でしか味わえない・購入できない食や土産物の情報を伝えることで、観光客の消費が増大し、また、経路や地図情報を効果的に伝えることで、地域内の回遊性・滞在時間の向上につながる。
- ・ 発信手法として、近年、SNS や動画共有サイトなどの利用が進んでおり、このような情報発信のデジタル化を推進する。
- ・ 国外に目を向けると、北海道における訪日外国人観光客は、平成23年度から右肩上がりに増加していたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、令和2年度には訪日外国人観光客は消失した。
- ・ インバウンドの消費による経済効果は大きいことから、コロナ収束後のインバウンド需要の復興を見据え、国や北海道、さっぽろ連携中枢都市圏観光協議会などの広域的な協議会と連携し、海外へ向けた効果的な情報発信を行う。

- ・14 ページの重点施策④「観光資源・自然環境の保護保全」について、近年、観光客の急増が地域の生活や自然環境に負の影響を及ぼし、その結果、旅行者の満足度や観光地の質を低下させる「オーバーツーリズム」や「観光公害」の懸念が全国的に生じている。
- ・観光業の発展と環境の保全を両立させ、豊かな自然と共存する観光地を実現するために「持続可能な観光」を目指すことを共通認識とし、限りある資源を次世代へ引き継ぐ。
- ・「石狩浜ハマナス再生プロジェクト」は、環境保全と地域活性化を両輪で進めている先進事例として記載している。
- ・15 ページの基本施策2「市内周遊の促進」に関して、本市は、広大な行政区域を有していることから、本町地区、厚田区、浜益区、の北部三地区を中心に、多様な観光資源を有している。また、札幌圏に位置している地理的優位性や主要幹線道路が通っており、交通量も多いことから、道内外からの観光客も期待される。
- ・しかし、情報発信が不十分であり、観光地としての認知度が低いことから、道の駅を中心とした現地における情報発信機能を強化するとともに、三地区の連携を強化し、相互にプロモーションを行うことで、周遊促進及び滞在時間の延伸を図る。
- ・加えて、市内周遊を促進するためには、現地における多様かつ魅力的な観光コンテンツが必要であることから、事業者や団体等による着地型観光商品の造成や磨き上げを支援し、着地型観光を推進するための基盤づくりを進める。
- ・併せて、サイクルツーリズムの推進を図る。
- ・重点施策⑤「道の駅石狩を核とした市内の周遊観光の促進」について、道の駅石狩は、展望デッキから望む夕日が大きな魅力であり、「完走者が選ぶ北海道「道の駅」ランキング」の景色がきれい部門において、2年連続で2位を受賞しており、年間約40万人が来場しているが、道の駅から他施設へ周遊していないという課題があることから、現地における情報発信機能の強化を図り、道の駅を拠点とした市内周遊の促進を図る。
- ・冬期間の閑散期における地域住民のコミュニティスペースとしての活用を推進する。
- ・16 ページの重点施策⑥「広域的な観光ルートづくり」では、観光客の旅行ニーズの多様化に対応するため、近隣自治体と連携し、観光資源を相互に結び付けることで、個々の資源の魅力を相乗・増強させた広域的な観光施策の展開が必要とされている。
- ・これまで潜在力が高いものの知名度が低かった観光地を、知名度の高い観光地と合わせて広域の周遊ルートに組み込むことにより、知名度向上に資することが期待できる。
- ・今までもさっぽろ連携中枢都市圏観光協議会や、石狩「道の駅」連携プロジェクトチームなど、広域的な協議会に参加してきたところであり、引き続き近隣自治体との広域連携を推進していく。
- ・道の駅石狩の以北へ観光客の行動範囲を延伸させるため、日本海オロロンライン沿線の市町村との連携の強化を図る。
- ・17 ページの基本施策3「食を通じた誘客促進」では、「食」は来訪目的の代表例であり、「食」を通じた観光客の誘致を図る。
- ・本市は、石狩鍋発祥の地とされ、「サケのまち」として全国に名を馳せているほか、多種多様な野菜、ブランド豚「望来豚」、新鮮な魚介類など、農畜水産品のすべての“美味しい”がそろっていることから、この食を活かした誘客の取組を行う。

- ・重点施策⑦「食や特産品の魅力発信及び販売促進」として、まちが誇る食の魅力を発信するに当たり、野菜の百貨店といわれるほど市内で穫れた野菜や加工品がそろっている「とれのさと」や、前浜で穫れた新鮮な魚介類の販売を行う「朝市」などと連携し、一次産品に関するプロモーションを図る。
- ・地域への経済効果が大きい地場産品を用いた飲食店、いしかり地産地消の店推進協議会加盟店のPRを積極的に行う。
- ・特産品は、旅行者がお土産として購入することで、観光における消費単価の増大につながるとともに、特産品自体が誘客の源泉となる。
- ・本市には、寒塩引や厚田のぶたまんなど、魅力的な特産品が多数そろっていることから、道の駅やヴィジターセンターなどでの販売や、物産イベントの出展、ふるさと納税サイト等のECサイトへの掲載などを通じて、石狩自慢の地場産品を用いた商品の積極的なPRを行う。
- ・18 ページの基本施策4「サケやニシンの歴史・文化の発信」について、令和2年5月に「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」が施行され、地域の観光関係事業者等と文化施設が連携することにより、文化施設の観光資源としての利用が推進されている。
- ・本市では、本町地区がサケ漁、厚田区・浜益区はニシン漁と共に発展した固有の歴史・文化を有しており、また、砂丘の風資料館や、はまます郷土資料館、道の駅の地域の歴史・文化・自然の情報コーナーなど、地域の歴史・文化を発信する施設があることから、この歴史・文化を観光資源の一つとして活用する。
- ・重点施策⑧は、基本方針4と同様「サケやニシンの歴史・文化の発信」とし、子どもから大人までの多世代を対象とした出前講座や体験の機会をつくり、市民一人ひとりがサケ・ニシン文化の魅力を発信することができるように、愛着を醸成するとともに、次世代への伝承を図る。
- ・様々な観光客が歴史・文化施設を訪れるように、ほかの観光資源と組み合わせた魅力発信を行うほか、北前船日本遺産推進協議会の構成自治体などと広域的な連携を図ることで、効果的なプロモーションを行う。
- ・19 ページの基本方針2「持続可能な観光で潤う」の基本施策5「市民が活躍する観光まちづくり」に関して、観光客が訪れたい「まち」は、地域の住民が住みたい「まち」であるという認識のもと、「観光」に偏ることなく、「地域住民」に焦点を当てた取組を推進する必要がある、「観光地づくり」と「まちづくり」を一体的に行うことで、住民及び来訪者の満足度を共に向上させることが重要である。
- ・重点施策⑨「シビックプライドの醸成」に関して、シビックプライドとは、地域内の住民が抱く、自分たちのまちに対する愛着や誇りを意味し、住民それぞれが当事者意識を持ち、地域の更なる活性化に寄与することを促すものであり、シビックプライドがあれば、市民自らがまちの魅力を知り、好きになり、家族や友人、知人などにその魅力を広めることに繋がり、最も効果的な観光プロモーションの一つとなる。
- ・シビックプライドを育むための有効な手段としては「地域教育」が挙げられ、老若男女、世代を問わず、広く地域住民に対して、「地域の魅力は何か」を知ってもらう場をつくることが重要であることから、市民や地域との協働事業を推進し、市民のシビックプライドの醸成を図る。
- ・重点施策⑩「ボランティアガイド等の育成・支援」に関して、現在、市内では「いしかりガイドボランティアの会」などにより、市民による地域の歴史・文化の発信を行っていただくとともに、観光サポーターにより物販イベントにおける特産品のPRや販売の補助等をしていただいている。

- ・このボランティアガイド等を将来へ引き継いでいくため、担い手の確保に向けた育成・支援を行う。
- ・20 ページの基本施策6「観光関連事業者等との連携強化」として、観光地域づくりには、体験メニューや着地型観光商品、観光特産品などの商品を開発し、流通させることが求められ、これらを取りまとめる地域のコーディネーターが必要。
- ・近年では、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として「観光地域づくり法人（DMO）」が重要とされている。
- ・石狩観光協会、株式会社あい風（道の駅の運営会社）、まちづくり協議会や事業者等との連携を強化するとともに、これらコーディネーターやDMOの可能性について検討を進める。
- ・重点施策⑩「観光関連事業者・協議会等との連携強化」の図20において、コーディネーターを通じた連携イメージを示している。
- ・21 ページには「計画の成果指標」を記しており、成果目標の項目及びその目標値については、現在検討中であり、第3回目の策定委員会で示す。
- ・22 ページは、計画の推進体制を記しており、市民、事業者、観光協会等、行政の取り組むべきことを記している。
- ・23 ページ以降は、策定までの経緯を記載している。

～重点施策ごとに確認～

○重点施策①「海辺の魅力アップ」

【南副委員長】

- ・石狩観光協会で公設海水浴場3か所の管理運営を受託している。令和3年度の入込客数は、石狩浜海水浴場が約114,000人、厚田海浜プールが約17,000人、川下海水浴場が約35,000人であり、いずれも令和元年度と比較すると増加している。
- ・増加の要因としては、天候に勝るものはなかったと認識している。

【岸本委員】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響などにより都市部から郊外に人が流れ込んできたことから、川下海浜公園は、キャンプ利用客で埋め尽くされていた。
- ・来場者が快適に利用できる環境を維持していくため、川下海浜公園の整備をしていただきたい。

○重点施策②「イベントの魅力アップ及び連携強化」

【平塚委員】

- ・そこでしか手に入らない、見ることができないものをつくることで観光の目的となり、人を呼び込むことができる。

【嶋田委員】

- ・新型コロナウイルス感染症が流行する前は、毎年、商工会議所青年部としてイベントに参画してきたが、流行後は関わることができていない。

- ・しかし、市民からはイベントを開催してほしいという声が出ている。
- ・既存の伝統的なイベントはそのまま引き継いでいくとともに、そのイベントにプラスアルファを行うと良い。

【秋井委員長】

- ・近年の RISING SUN ROCK FESTIVAL や三大秋祭りの入込状況はどのようなになっているのか。

【事務局】

- ・新型コロナウイルス感染症の流行前のデータであるが、RISING SUN ROCK FESTIVAL は 74,000 人（平成 30 年）、石狩さけまつりは 40,000 人（令和元年）、厚田ふるさとあきあじ祭りは 10,000 人（平成 30 年）、浜益ふるさと祭りは 5,500 人（令和元年）の入込客数となっている。

【秋井委員長】

- ・来年は RISING SUN ROCK FESTIVAL は開催予定か。

【事務局】

- ・新型コロナウイルス感染症の状況次第ではあるが、事業者からはやりたいという意向を聞いている。

【岸本委員】

- ・例年浜益ふるさと祭りは、区民に加え、その親戚なども多く来ており、地元が盛り上がると地域も盛り上がることから、地域住民に目を向けた取組も考えていただきたい。

○重点施策③「国内外へ向けた情報発信」

【秋井委員長】

- ・新型コロナウイルス感染症の流行前は、台湾や香港などの富裕層がツーリングなどで道の駅によく訪れていたが、ここ 2 年間は全く見なくなったことから、国内の観光需要の大事さを再認識し、国内に向けた情報発信の拡充は重要であると感じている。

【事務局】

- ・ある民間企業の調査によると、新型コロナウイルス感染症の収束後に訪れたいまちランキングで北海道は上位に位置している。
- ・収束後に向けた国外に向けた情報発信の取組としては、石狩市単独では、多言語の観光プロモーション映像の制作などをしており、広域的にはさっぽろ連携中枢都市圏観光協議会により、東アジアに対して共同でプロモーションを図っている。

【南副委員長】

- ・石狩観光協会では、SNS を用いた取組としては写真 7 のとおり Twitter による情報発信を行っている。

- ・現在、フォロワーは 3,500 人であり、市内の観光情報の収集やこまめな情報発信がフォロワー増につながっていると考えている。
- ・石狩市の訪日外国人観光客数は把握しているか。

【事務局】

- ・北海道の観光入込客数調査において、宿泊施設に訪れている外国人の人数は集計しているが、札幌に宿泊して本市に訪れている方も多いと推察されるため、実態の把握はできていない。

【木村委員】

- ・古民家の宿「Solii」や樋口季一郎記念館に係る記載はどこかに設けないのか。

【事務局】

- ・市の重要な観光資源という認識である。ただし、色々な施策に絡んでくることから、どのように組み込むことができるか事務局で検討させていただく。

○重点施策④「観光資源・自然環境の保護保全」

【秋井委員長】

- ・ハマナスプロダクツは、道の駅でも販売をしていることから、石狩浜ハマナス再生プロジェクトの情報は道の駅でも発信していきたい。

【南副委員長】

- ・文章中の「オーバーツーリズム」や「観光公害」という言葉は、一般論としてはわかるが、石狩の現状と結びつかないように感じる。

【事務局】

- ・今現在、市内で生じていない場合においても、観光資源を次世代に引き継いでいくため、意識はしておかないといけないと考えている。
- ・特に近年では、SNS で拡散すると一気に人が集中してしまい、急速に観光資源が破壊されてしまうこともあるため、懸念としては必要である。ただし、表現については、事務局で整理させていただく。

【岸本委員】

- ・濃昼山道や増毛山道についても、積極的に PR を行っていただきたい。

○重点施策⑤「道の駅石狩を核とした市内の周遊観光の促進」

【秋井委員長】

- ・北石狩地域観光まちづくり協議会として、E-Fat バイクの導入や恋人の聖地及びラバーズオーシャンを用いたフォトコンテストの実施などにより、着地型観光の推進を図ってきたところである。

- ・令和3年度から始めた手ぶらでキャンプは、大変好評であったとともに、利用者の8割が厚田キャンプ場の利用が初であり、新規の客層を取り入れることができた。

【平塚委員】

- ・石狩は地区間の距離が遠く、移動の制約があるように感じられる。そのため、現実的には難しいが、シャトルバスやクルーズ船があると良い。

【事務局】

- ・近年のトレンドとして、新型コロナウイルス感染症により、家族による車1台での小旅行やレンタカーの利用が主流となっていることから、このドライブ観光客をターゲットにしていきたい。
- ・周遊観光では、如何に石狩に来ていただき、如何に滞在してもらうのが大事であることから、今年度は、謎解き周遊事業や道の駅で情報発信ボードによるショップカードの配布、とれのさとやヴィジターセンターのデジタルサイネージで相互に映像でPRを行うなど、小さなところから取組を進めている。

【秋井委員長】

- ・道の駅は高齢の来場者も多いこともあり、アナログであるショップカードの配布は大変好評を得ている。
- ・特に寿司処ふじ田や海幸などの海鮮を使った料理を掲載しているカードがすぐに在庫がなくなっている。このような観光客の需要がどこに向いているのかなど、店の方に情報をフィードバックすることも大切である。

○重点施策⑥「広域的な観光ルートづくり」

【事務局】

- ・広域的な協議会に属し、様々な枠組みで観光ルートづくりに取り組んでいる。
- ・サイクルツーリズムとしては、海も山も見ることができる景観が大変魅力的であると評価を受けている。

○重点施策⑦「食や特産品の魅力発信及び販売促進」

【木村委員】

- ・とれのさととは、去年から約20万人に来場いただいている。
- ・新たな取組としては、6月からジビエの商品を置いており、固定客がつくなど好評をいただいている。
- ・とれのさととは多種多様な野菜が置いてあり、石狩鍋の材料をオール石狩産でそろえることができる。

【秋井委員長】

- ・石狩は石狩鍋で有名であるにもかかわらず、市内で石狩鍋を食べることができる飲食店が少ない。

【木村委員】

- ・体験メニューとして、石狩鍋づくりを設けることも良いと思う。

【南副委員長】

- ・ふるさと納税の状況としては、令和元年度が約 1.5 億円、令和 2 年度が 3.5 億円と順調に推移しており、今年度も令和 2 年度と同程度になると推測している。
- ・ふるさと納税の EC サイトにはほぼ全て載せるようになったことが増加の要因である。
- ・人気の返礼品は、水産加工品が中心である。

○重点施策⑧「サケやニシンの歴史・文化の発信」

【事務局】

- ・現在、砂丘の風資料館やはまます郷土資料館、道の駅 2 階の地域の歴史・文化・自然の情報コーナーなどにおいて、サケ・ニシン文化の発信をしているほか、濃昼山道・増毛山道におけるガイドツアーや、本町地区においては、いしかりガイドボランティアの会が歴史・文化に係る観光案内を行っている。

○重点施策⑨「シビックプライドの醸成」

【久保田委員】

- ・花川南地区などの市街地は、花が多く景観が良いと感じている。しかし、本市の観光の中核となる北部地区（本町地区・厚田区・浜益区）に向かう際に通る道道 44 号線（石狩手稲線）は、草木が生い茂っており、景観が良いとは言えない。
- ・観光客を迎え入れるような思いで花を植えるなど、景観づくりを進めると良い。

【事務局】

- ・まちづくりの中で景観を良くするのは重要なことであるが、行政だけで進めるのは困難であり、市民の協力が必要となる。
- ・石狩に住みたいというシビックプライドを醸成することにより、景観づくりの取組に参加していただける市民も増えていくと考えられる。

○重点施策⑩「ボランティアガイド等の育成・支援」

【南副委員長】

- ・いしかりガイドボランティアの会、いしかり観光サポーターは共に精力的に活動している。
- ・新型コロナウイルス感染症により活動の幅は制限されるものの、いしかりガイドボランティアの会は、本町地区で観光案内や研修会を実施しており、いしかり観光サポーターは、直近ではイオン緑苑台や手稲駅あいくるで物販の補助をしていただいている。

【岸本委員】

- ・山岳会も活動が続けていると話を伺っているため、計画に盛り込んでいただきたい。

○重点施策⑪「観光関連事業者・協議会等との連携強化」

【秋井委員長】

- ・観光客の誘致、物販の振興など、各主体の連携を深めていきたい。

○その他

【平塚委員】

- ・各重点施策は連携して取り組んでいくことで、より効果的な施策となることを意識する必要がある。

【事務局】

- ・各施策を有機的に結び付けることで効果的になるものと認識している。計画内における表現については、検討させていただきたい。

【南副委員長】

- ・今年度、アドベンチャートラベルがオンライン開催となったが、北海道では何年か後に再度手上げをするという話を伺っている。
- ・石狩でもアウトドアができる場所や、体験メニューが豊富であることから、計画内にそのような視点を設けることはどうか。

【事務局】

- ・市内には、濃昼山道・増毛山道やハマナス体験ツアーなど、自然・歴史・文化を体験できるところが多くあり、その磨き上げが必要であると認識している。計画内における表現については、検討させていただきたい。

令和 5 年 11 月 11 日 議事録確認
第3次石狩市観光振興計画策定委員会

委員長

秋井 卓也